

《発行所》
 青山同窓会
 〒951 新潟市関屋下川原町2-635
 新潟県立新潟高等学校内
 TEL 025-266-5268
 FAX 025-266-5268
 《編集、発行人》
 教井栄一
 《印刷所》
 オリオン印刷 ㈱
 〒950 新潟市南出来島1-19-1
 TEL 025-283-2151
 FAX 025-283-3804

いあいさし

青山同窓会会長

50回 上村光司



今年も皆さん元気な顔をそろえて、年次総会を開く運びになりました。いつもながら、各期幹事各位のご尽力にお礼申し上げます。

母校は待望の全面改築が始まります。「待望」であると同時に現校舎で学んだ方々には、惜別の念尽きない取り壊しでありましょう。同窓会としても、現校舎にはいろいろな記憶、情念がこもっています。

昭和二十九年（一九五四）四月四日末明、旧校舎の四分の三、六四〇〇平方メートルが二時間

余りの間に焼失してしまいました。二部授業やブラック教室造りなど応急処置と併行して、本格的再建への運動が始まりました。同窓会とPTAとで「新潟高等学校復興期成会」を組織し、学校当局と力を合わせて推進をはかったのです。当時は県財政不如意で、建築費半額地元負担の定めでしたし、鉄筋校舎にするよう要望したので、募金の成否がカギになったのであります。

難関を次々と打開して、現在の校舎本体、続いて体育館が出来上がったのは、九年の後でした。新制高校としての軌道に乗った途端の校舎焼失は、学校当局にも生徒諸君にも大打撃でした。しかし、学校の発展の歴史を通して考えると、良い大転機でもあったと思えてなりません。旧校舎は火災当時築後三十二年。

まだまだ使えたわけですから、焼けなければ、新学制による高等学校にふさわしい校舎になるのは、相当遅れたに違いない。世の中、長い目で見ると禍と福、浮き沈みがうまく均（なら）さされてしまうものなのでしょう。そしてわが青山同窓会にとっても、同窓会活動の基礎ができたのが、この校舎復興運動の経過の中にあつたのだと、先輩各位のご尽力に感謝しています。当時会長として先頭に立たれた長谷川寛、鍵富清一郎のお二人のご業績、おもかげをしのぶごと、しきりでありませぬ。

ところで六年後の平成十四年（二〇〇二）は母校百周年に当たります。いまのスケジュールでは校舎・体育館・プール・グラウンドと全部完成するのが平成十三年度ですから、新しい革袋のために相応の協力をしなければなりません。その準備一端的に申しますと名簿と会計の充実が必要です。

百周年の名簿発行作業から五年たちました。この間にも会員

各位の仕事や住所は相当変わっているはずで、中間補整をしておくべきだと考えます。また、同窓会報は年会費を納めてくださった方にお届けしていますが、今回臨時的に名簿掲載全員に会報をお送りして、近況説明に合わせ、年会費納入の勧誘をすることにしたと思います。配送料など経費が相当かかりますが、ご了承を得たいと存じます。

この号の別稿に、東京青山同窓会が毎年開いている「新人歓迎会」の報告が載っているはずですが、毎年ポケットをはたいてこの催しを続けている東京同窓会に敬意を表するとともに、来臨された齋藤英四郎大先輩の、東京で働いて六十余年、なお新潟を、母校を思うところの深さに打たれた次第です。

東京青山同窓会

新人歓迎会

今年も、さる六月十四日午後六時より、恒例の「新人歓迎会」が東京経済新聞社ビル九階ホールで盛大に開催されました。今春東京および近郊の大学や予備校で学ぶことになった新卒業生が招かれ、大先輩たちから温かい

歓迎を受けました。名簿には四十四名の出席予定者の名前がありました。四十四名の出席予定者の中には、連れ立ってやってきました新人の総数はそれをかなり上回っていました。学校からは旧三年担任を代表して荒木勉、齋藤繁夫両先生が出向かれ、加えて、青山同窓会からは上村光司会長、山田栄校内幹事、事務局の三浦弘子さんも駆け付け、会を盛り上げました。

坂井俊一氏（64回）の司会のもとに齋藤伸雄東京青山同窓会長、齋藤英四郎名譽会長の挨拶があり、そのあと「新人を迎えて」と題してテレビ東京常務取締役植村勲音氏（64回）が講演されました。題はともかく自分の事を話します、と職業柄出会う



写真右 齋藤伸雄会長、左 齋藤英四郎名譽会長

た人々との交流を中心に、出合いの大切さを説かれました。齋藤英四郎さんがおられるからと、元国鉄総裁の石田礼助さんがテレビ出演料から僅かな電車賃を返しにこられたエピソードを語られるときは感激で声をつまらせるほどの熱演でした。

先輩達の温かい歓迎に新人を代表して遠藤義之君（早稲田）が返礼の辞を述べた後、会は懇親会へと移りました。卒業後初めて再開した新人たちは飲む間も食べる間も惜しそうに話はずみ、また先輩と新人が親しく杯を交わし、歓談を重ね、和気あいあいの中で時が流れていきました。同窓同士に独特な雰囲気……伝統の「青山」の精神が会場に溢れていました。

締めくくりは校歌と応援歌、そしてエールの交換です。伝統の名に恥じない細貝康介君（早稲田）のリードを背に、二次会場へと散っていったのでした。



「青空先生」が描いた新潟!

三浦文治日本画回顧展の

開催によせて...

人間愛あふれる画風 生徒に遊びの心も伝授

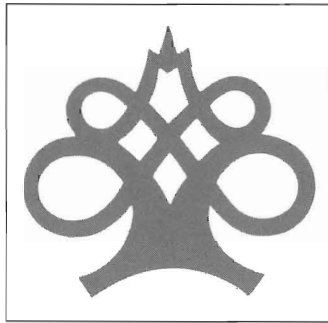
60回 美術部OB 益子 恒徳

六十回の私たちが三浦文治先生に初めてお目にかかったのは、昭和二十一年、当時、県立新潟中学校の一年生の時でした。終戦の翌年のことで、先生は美術の担任として赴任してこられました。

平和が戻り、自由な雰囲気のみなぎる中で、三浦先生の授業は常に青空といっしょでした。晴れた日の美術の授業は、あの松林と白い砂丘が教室となりました。或る者はスケッチブックをかかえ、或る者は手ぶらで散歩すること出陣し、サボル者は少なかつたようです。

私たちは親しみをこめて「青空ボン太」というニックネームを奉ったものです。まぶしそうに空を見上げる先生の穏やかな顔が忘れられません。

昭和二十三年、学制改革によ



疲弊と混沌の時代に製作され

たとはいえ、先生の校章デザインにたいする造形の確かさ、感覚の新鮮さには驚かされます。

しかも一筆書きのできる校章であり、先生の遊び心をかいま見る思いがします。

当時も課外クラブ活動には野

球部、水泳部、陸上競技部、籠球部、テニス部、バレー部、柔道部など華やかなスポーツ部のほかに、自己のパフォーマンスを狙う演劇部、文学部、園芸部、書道部にまじって、美術部がありました。

私が高三の美術部長の時には兼部をしている者も含め、美術部に籍を置く者は三十数名を数えました。このことは指導にあたった三浦先生の個性である自由、遊び心、ゆとり、といったような雰囲気か漂っていた美術部にあこがれ、多数、入部して来たことでもおわかりいただけるとと思います。

私たちが高校を卒業したのは昭和二十七年、先生はその四年後の昭和三十一年、約十年勤められた新潟高校を辞め、新発田、三条の各高校教諭を経た後、定年後、昭和五十五年に神奈川県葉山町に転居、平成六年九月八日、逝去されるまで、葉山の地で身体を勞りながら絵を書いておられました。享年八十八歳でした。

ところで三浦文治先生は、明治三十九年、北浦原水原町生まれで、大正十五年に東京美術学校(今の芸大)日本画科に入學。当時の教授であった川合玉堂、松岡映丘らの薫陶を受けました。同期の東山魁夷、橋本明治、加

藤栄三、山田申吾らと常に主席を争い、特待生に二度選ばれました。

卒業作品は東山、橋本、加藤、三浦の四点が、美術学校の買い上げとなり、榮譽を受けました。当時は一、二点の買い上げが常だっただけに、その年の例を見ない秀才たちの輩出に、驚きの目が向けられました。

三浦文治の卒業作品は上野の山で花見を楽しむ人々を俯瞰で描いたものです。

それに昭和四年、第十回帝展の「ブル図」以来、入選作品のテーマを見ても「チンドンヤ図」、「林間学校図」、「盆踊り図」と、いつも人と風物との自然のかかりを描いて来たことがわかります。

一貫して言えることは、生きている人間に愛情を抱きつつけて来た三浦先生が「今様良寛」とみんなから親しまれて来たのも当然と思われまます。

我が新潟高校に十年間奉職し、その後も高校教諭の道を歩まれ、日本画壇から遠のいたとは言え、三浦文治先生の輝かしい経歴、人間愛あふれる画風と人となり、青山同窓会の人々は勿論、少しでも多くの人たちに紹介したいと考え、昨年より美術部OBが中心となって、今年の秋、先生の三回忌に合わせ、三浦文

治回顧展を開催すべく実行委員会を発足させ準備をして来ました。

現在、保存されている作品は、全部で二百五十点ほどありますが、展示会場の都合もあり、今

回は百二十点くらいになる見込みです。

皆様からは是非ご来場いただき、「青空先生」の描いた新潟と人間愛溢れる画風を堪能して戴きたいと思ひます。

〈予告〉三浦文治回顧展

昭和二十一年(一九四六)から十年間、母校に在職され、「松葉かたどる」校章をデザインされた日本画家、三浦文治さんの没後二年、その回顧展が開かれることになった。九月二十六日(木)から十月一日(火)まで、新潟市大和デパート七階特設会場。主催新潟日報社。三浦先生に教わった六十回卒で在京の益子恒徳、金山常吉、佐々木城、高山東雄氏らが実行委員会を作って奔走している。

東京美術学校時代から秀才の評価が高かったその日本画全作品と、「青空ボン太」とニックネームを奉られた人柄を味わってほしいという。同時に画集「三浦文治の世界」(三〇〇〇円)も発行の予定。問い合わせは三浦文治回顧展実行委員会、電話〇三三三三八四一一〇四三。



82期3年1組同級会

期 日 8月12日(月) 18:00~
場 所 如庵 (TEL 025-223-5515)
会 費 6,000円程度
連絡先 025-265-3196 (小林宅まで)

※3年1組以外の参加者も歓迎致します。

寄稿

旧制中学の同窓として 感ずる事

48回 小池 清泰

来る7月12日の総会に欠席するについて、旧中同窓の一人として聊さか所見を述べさせていただきます。先年行われた母校の百周年記念式典の折、旧制新潟中学のあの名校歌「玲瓏の天」が会場に流されず、そのことを慨嘆し、扇、酒井両先輩が会報に寄稿された一文を拝見し、小生当日は欠席しましたが、その日出席していた旧中同窓生がどれだけ落胆したかと思ふと痛憤もだし難く、経緯の説明を時の実行委員関根彰円君に求めたことがあります。

思うに、同窓会、同級会に出ているひとの大きな楽しみは少年のころに歌った校歌、応援歌を高唱し、ひととき魂の昂揚を味わうことに在るのではないのでしょうか。

新中百周年式典と前後して催された県立三条高校の式典では『風 空攘を翻し』の旧制三条中学の校歌が終始流されたと新聞が報じたことを酒井先輩も書いておられました。

小生、クラス会には熱心で昭和52年以来20年近く首都圏48期回の幹事をやっています。しか

し同窓会のほうはどうも気乗りせず、申しわけのないことですがいつも欠席しています。

決して愛校心がないからではありません。同期のK君の評を借りれば「異常なまでの愛校心の持ち主」と言われているくらいであります。ここで旧中卒業生の心を代弁させていただきます。

その第一は全同窓生に占める旧中卒の生存者の割合は今や極めて小さくなっているということ。

第二に、母校への愛着、誇りなどの面で新旧双方に共通の意識があることは否定しませんが、それらは校名が変わったことなどを乗り換えて連帯感をキープさせていると考えています。

しかし、他方、多くの点で双方にはあい容れないものがあるのであります。それは、修業年限であります。片や旧制の5年に対し、新制は約半分の3年。

多感な年代の2年の違いは母校への思いに大きなひらきを生じると思うのであります。

次は両者の送った青春の時代背景の違いであります。

この相違については多言を要しないと思ひます。大正、昭和のローマン主義に次ぐ全体主義、軍国主義。そしてすべての若者の自由と青春を奪い去った悲惨な戦争。そのなかに辛うじて生きのびた後の苦しい年月をひたすら駆けぬけて来た旧中の同窓。

アメリカ民主主義のもと、自由と豊かさを享受してハッピーな青春を謳歌して来た新制の諸君。

両者の国家観、社会観、人生観にはどうしても重なりきれないものがあるのは致し方のないことだともいえます。

第三に、会が主力を占める新制の諸君によって運営されるのは当然のことであり、旧制卒業生の思いをつい忘れて、百周年式典のような悲しいできごとにつながったのも至極当然のことだともいえます。

以上、或いは極端の誇りをうけるかもしれませんが、あしからずご海容賜りたく。

以上、或いは極端の誇りをうけるかもしれませんが、あしからずご海容賜りたく。

以上、或いは極端の誇りをうけるかもしれませんが、あしからずご海容賜りたく。

以上、或いは極端の誇りをうけるかもしれませんが、あしからずご海容賜りたく。

旧中の同窓生の余命も余り長くはないのであります。

ここで、同総会を新旧二つに分けて、旧制の同窓が大体この世を去ってしまいうまで、県立新潟中学校同窓会(青山の名は避けてほしい。今は有名大学の一つになった青山学院大のそれと混同している)を運営することにしたら如何でしょうか。

旧制の同窓会としてではなく、二年後輩の、後輩の一人として、少し感想を申したいと存じます。

お手紙、ありがとうございます。学制の違い、時代背景の違い、気質の違いなど、同窓、共感するところが多くあります。

親、子、孫三代にわたる会員も珍しくはない、わが同窓です。校舎も、教わった先生も、星霜の移ろいとともに変わりました。

新制の諸君とて、すでに四十八回。新制同士の中でも違いはまた大きいはず。

しかし、それでありながら一堂に会するとき何ともいえぬ親しみ、連帯感が湧いて来てはいないでしょうか。異質なものの、浮世のもろもろを飲みこんでしまうのが同窓会というものなのだろうと、私は思っています。

百周年記念式典で「玲瓏の天」が会場に流されなかったという慨嘆は、そのとおりであります。

今後留意いたします。ただ記念祝賀会には「玲瓏の天」は高唱されましたし、応援歌合唱も昔の応援歌です。毎年の総会も校歌斉唱は「玲瓏の天」が先であります。

在京でご多用と思いますし、交通費がかさむので恐縮ですが、ぜひ来年あたり、新潟の総会へもご出席くださるよう、お願いします。

お手紙を
拝見して
50回 上村 光司

山岳部OB会
小林先輩の
門出を祝う会
四月二十日(土)に開催
74回 馬場 泰

山岳部の親分小林光衛さん64回が、今春、南高校を最後に教員生活を卒業された。親しく教えを受けた山の弟子達が、音頭をとり祝う会を企画。仕事で行っていたウェトナムから朝帰りです。参加してくれた、エヴェレスト登頂の石黒久君(73回)を始め、全国各地から、懐かしい面々が



恒例の秋のOB会を今年も9月7日~8日に、巻機山にて行う予定です。7日夕刻まで山麓に集合、登山口の山小舎にて、懇親会を開催。8日には巻機山登山。くわしくは電話(283)2151石沢へ。

予 告
山岳部OB会
巻機山にて開催

寄稿

樹齢八百年の老松に刮目

59回 五十嵐 哲夫

「おい、八百年もたった松を見に行かんか」という電話があったのは、昨年の秋も深まったあの日のことだった。電話の主は伊佐修君。ひまをもて余している小生のこと、ふたつ返事でOKする。十一月二十三日の勤労感謝の日、高級車セルシオで我が家を迎えに来てくれたのは、菊地晴彦君、小野寺宏君、それに伊佐君の面々である。直ちに一路横越村小杉へと急行する。

めざすは、真宗大谷派、元久山松韻寺。開基は元久元年（一二〇四年）というから古刹中の古刹である。

この寺の第三十八世の御院主は、実は我等59回の仲間、関根直哉君その人である。

ところが残念なことに御院主は法要のため不在とのこと。奥様から、座敷に招き入れられ、お茶をご馳走になりながら、寺の由来をおききする。壁には由緒ある書の掛軸が数幅掛られていたが、浅学の小生のこと、読める字はいくらもなかった。その後、御本尊の阿弥陀如来をお参りし、いよいよ樹齢八百年と云われる老松を拝観することに

なる。

この松は、親鸞聖人袈裟掛の松と称され、数ある寺宝のひとつのことである。

高さは六〇七メートル程もあろうか、主幹を中心に数段の枝が放射状に斜め下方に向けて広がっている。全体の形態は別掲



の写真をご覧いただきたい。老齢であるため主幹の一部が空洞になっており、下から見上げると空が覗ける状態でありながら、また、幹も枝も大小数拾本の支柱に支えられながらも、青々とした葉を繁らせて周囲を睥睨している姿は、寺宝に値するに十分と見た。八百年の出来事を見つめて来たこの老松に何か



神々しさを感じたのは小生だけだったろうか。

別掲のもう一枚の写真は当日のメンバーで、右から小野寺君、御院主奥様、五十嵐、伊佐君、菊地君である。

あつかましくも手ぶらで訪れた我々は、帰りには境内で成った柿をたくさんいただいて恐縮しながら松韻寺をあとにした。

このあと伊佐君宅へ帰り、四人そろえばおきまりのコースで麻雀を一戦その後伊佐君の奥様の心づくしの手料理で酒盛りとなり、夜おそくまでご迷惑をかけてしまった。

このように小生にとつては、古刹の寺宝拝観や、学生の頃の思い出話と、意義深い一日を過ごさせていただいたが、お世話になった松韻寺の関根君ご夫妻、伊佐君ご夫妻に感謝とお礼を申しあげ、老松拝観の報告としたい。

59期同期会開催のお知らせ

我々五九期生が、母校を卒業して今年丁度四五周年の節目の年に当たります。そこで、左記の日程により盛大な記念同期会を開催致す事になりました。

一、期日 平成八年九月一日(土) 一泊

一、会場 湯沢温泉ニューオータニホテル

一、会費 貳萬圓

尚、詳細に就きましては、八月初旬頃各位に案内状を郵送致しますが、取敢ず青山同窓会々の紙面をお借りして、少し早めにご案内を致しますので、今から諸兄の予定に入れておいて頂き度、お願い致します。以上

第一回
青山OB会
ゴルフコンペ
報告

今回から組織を一新し、上村会長のもと発足しました青山同窓会ゴルフ部会「青山OB会」の第一回コンペが青陵祭も終了した六月十一日、中峰ゴルフクラブで開催されました。当日は曇天で多少雨はパラつきましたものの、そこは元青陵健児三十二名の参加のもと根性で払いのけ、大変熱気のある会

結果は 坂井恒雄(56回卒) グロス92 ハンデ22・4 ネット69・6

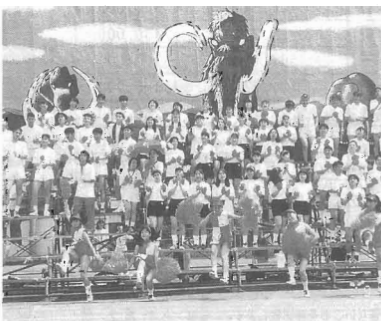
優勝 田中忠夫(73回卒) グロス91 ハンデ20・8 ネット70・2

となり坂井さんはシニアレディース優勝も同時に獲得されました。

次回は秋に行う予定ですが皆様の参加しやすい日程を考えてみたいと思っております。青山OB会へは年会費千円を同窓会事務局へご持参下さればどなたでも入会でき、コンペの連絡がまいります。どうぞ多数の方々のご加入をお願い致します。

(75回卒 幹事 富山修一)

富山修一



青陵祭スナップ

寄稿

「會津八一もうひとつの世界」

刊行によせて

旧職員 皆川 喜代弘

昨年、會津八一記念館が開館二十周年を迎えるにあたって、先生の偉業をより多くの人々に伝え、関心をもっていたために「會津八一と心をかよわせた文人達」に焦点を合わせ、沙門良寛から棟方志功に至る三十人という豪華な顔ぶれの文人達。新潟高校との関係では、本校々歌作詞者であり、八一とは早大で同期の相馬御風、本校第九回卒、八一の二年後輩で、八一が「南京新唱」を世に出す切っ掛けを与えた歌人・教育者の式場益平(号麻青)、新潟の舟江情緒、蒲原平野の田園風景を中心とした風情に彩筆を振った本校第十回・漢詩人で画家の笠原輒、八一の後輩で彫刻家の羽下修三(号大化)、同じく八一の後輩で親交のあった篆刻家・乙川大愚、坂口家の安吾と猷吉、現役の良寛研究家で八一とは親交があり、来年、米寿を迎えられる渡辺秀英先生とどのような交流があったのか。さらに各文人達の作品・墨跡・書籍・資料・写真などを展示することにより

「もう一つの會津八一の世界」を表現出来たと思う。

「會津八一と心をかよわせた文人展」(主催・日報・BSN、会場・新潟伊勢丹)は有料にもかかわらず約五〇〇〇人の展覧者があり好評であった。その時の作品を主体にして、製本には全精力を傾注して取り組んできたつもりである。

今年には會津先生没後四十年に「できるだけ大きい夢を持ちなさい。夢以上の人にはなれませぬ。小さい夢ではいけない。夢どまり。不思議なことに、夢の方からチャンスを与えてくれるのです。チャンスは幸運の女神や福の神の姿では現れません。何気ない格好で近づいて来ます。夢を大きく持たないと、それと気づかないうちに素通りしてしまいます。」

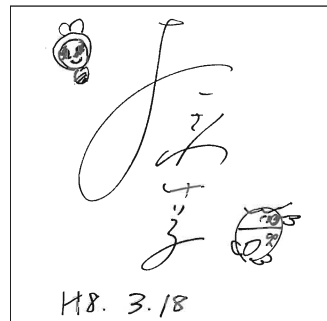
平成七年度の講演会は、本校



講演会報告

あたる。遅まきながら新たな風と動きが感じられる。例えば會津八一の生涯を描く映画(俳優・仲代達矢主演)が、今秋、NHKハイ・ビジョンで放映されることである。またつい最近、神奈川県川奈バーのバスが三台も記念館にとまっていた。珍しい現象である。いつもこうであってほしいと願うものである。今回、担当された本校第八十回の神原誠氏(日報事業社次長)の取り組む姿勢には、大先輩會津八一に対する畏敬の念さえ感じられた。この本が青山同窓の皆様はじめ、全国の大勢の皆様のもとに届くことを祈っている。(現新津市図書館長)

「できるだけ大きい夢を持ちなさい。夢以上の人にはなれませぬ。小さい夢ではいけない。夢どまり。不思議なことに、夢の方からチャンスを与えてくれるのです。チャンスは幸運の女神や福の神の姿では現れません。何気ない格好で近づいて来ます。夢を大きく持たないと、それと気づかないうちに素通りしてしまいます。」



卒業に至るまで声優として活躍。日本大学芸術学部放送学科へ入学してから今日まで、DJ、司会、声優、ナレーターとして幅広い分野で活躍されている。講演の中で氏自らご紹介下さった作品だけでも、「ドカベン」「ボールのミラクル大作戦」「タイムボカン」「若草のシャロット」「はいからさんが通る」「子熊のミーシャ」「エスパイ魔美」「かぼちゃワイン」「オバケのQ太郎」「ドラえもん」「お母さんと一緒」「天空の城ラピュタ」「ラストコンサート」「サウンド・オブ・ミュージック」と教えきれないほどである。現在はナレータースクールの開設し、社長業のかたわら、ご自身で生徒たちへの指導に当たっておいでとのこと。

ご講演の後半には、ナレータースクールの朗読用テキストとして自ら執筆された「裳の中の赤子」という脚本を、朗読して下さい。紀元前七世紀の晋の国を舞台とする伝説を膨らませてお書きになった脚本で、「古い時代の君主とそれに仕える者たちとの物語」としてではなく、「一人の人物に心底惚れ込み、その結果、我が子も自らをも犠牲にすることを厭わない人間の物語」として改作されたもの。当日は生憎の寒さであったが、一、二年生全員が身動き一つせざる聞き入っていた。ご講演の最後には、生徒たちからの質問も受けて下さった。「じゃじゃ丸・ぴっころ・ぼろり」の中には声優さんたちが入っているのか、小さい頃から疑問

決算書、予算書について(編集部注)

今回掲載の決算、予算は本来新年号に掲載すべきものですが、紙面の都合で夏の号に回ったものです。この総会で審議されます決算、予算は、今まで通りに、来年の新年号に掲載されます。

青山同窓会収支決算書・収支予算書

収入の部	科目	平成6年度決算額		平成7年度予算額	
		円	円	円	円
収入の部	繰越金	2,339,926	2,317,000		
	入会金	1,227,200	1,112,000		
	会費	5,549,455	3,500,000		
	雑収	23,559	10,000		
	合計	9,140,140	6,939,000		
支出の部	人件費	1,252,600	1,200,000		
	通信費	1,084,975	1,300,000		
	印刷費	169,342	300,000		
	慶弔費	98,225	150,000		
	会報印刷費	507,790	700,000		
	会議費	721,825	1,150,000		
	卒業生記念品代	226,100	250,000		
	補助費	598,500	670,000		
	退職積立金	100,000	100,000		
	諸費	63,449	100,000		
	予備	0	1,019,000		
	合計	4,822,806	6,939,000		

次年度繰越金 2,317,334円
平成7年4月27日
上記の通り相違ないことを確認致します。



46会ゴルフコンペ報告記

(株)新潟クボタ取締役営業副部長

79回 吉田 至夫

青春は群れたがる。しかし中年もまた群れたがる。というこ

とで、昭和四十六年卒の同級生有志が二十五年ぶりに集まって、ゴルフコンペをやった。

時は平成八年六月一日、土曜日。場所は新津カントリークラブ。天候晴れ、風少なし。

参加者をアイウエオ順に紹介する。

江花和郎君・連合新潟国民運動部長。片岡道夫(旧姓豊岡)君・(株)日園代表取締役副社長。

木村泰博君・木村経営労務事務所。近藤浩平君・(株)本間組開発

営業部営業課長。佐々木隆輔君・佐々木経理事務所公認会計士。

鈴木正昭君・日翔開発(株)代表取締役。そして特別出演で一年先輩の熊木徳次郎氏・(株)熊木組代表取締役専務。最後に幹事の吉田。

熊木先輩には感謝したい。小泉伸之君・新潟県議会議員が急用のため、青山剣友会でお世話

になっていて熊木先輩にお願いしたところ快く参加して頂いた。堂々たるゴルフ、大陸的気風で

ご指導頂いた。改めて深く御礼

申しあげる。

スコアは敢えて記さない。次回から固定ハンデ戦にするため、今回は参考用で九ホールペリアとした。それが、ちっとも参考

にならない。なにしろ、11と14(本人の名誉のため、11は江花君、14は熊木先輩と木村君)がある

は40なのだから。ボールは意図に反し、限りなく右に流れる。高校時代は左翼

右翼といろいろあったが、ボールのゆくえは思想、信条と無縁

である。ただ、技量のみの問題のようである。

急遽、ハンデ選考委員会を開催することとなり、場所を新潟

古町の小料理屋に移した。こういう時は実に、ストレートボール

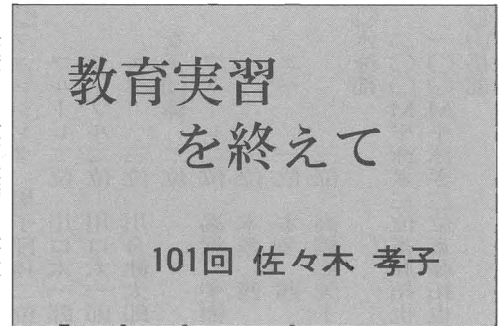
である。大いに良とすべしだ。結論は、次回を平成八年十月

頃に開催するというわけである。自分のスコアを忘却の彼方に押しやり、冷酒のうまさのみ記憶にとどめる。が、とても楽しい一日であった。次回に同好の

士の参加が増えることをぜひ期待し、報告記を終りたい。

教育実習を終えて

101回 佐々木 孝子



たりもしました。私達の頃は50分授業でしたが、今は65分授業となっていました。この一時限分の授業の組み立ては、私にとつて本当に大変なことでした。三

クラスに同じ授業や実験を担当させてもらいましたが、クラスによって進み具合が違ったり、慣れない板書の書き方でとまど

たり、実験がうまくいかなかったり、日々試行錯誤の繰り返しでした。授業を終えた後、質問

にきてくれた生徒がいた時は、自分の授業に対して反応があつたと感じて、とてもうれしく思

いました。また、廊下を歩いてみると、元氣よく挨拶してくれたり、にっこりと笑ってくれる

生徒達に大変勇気づけられました。何といつてもこの二週間私を支えてくれたのは、親切に暖かく御指導下さった諸先生方

した。後輩達が良き伝統を守り、更に発展に努めている様子を見て、とても力強く感じました。

来年度からは、校舎が新しくなり、懐かしい校舎での授業は本年が最後だと聞き、古い校舎や教室がともいとおしく感じま

ました。懐しの母校での教育実習はとても有意義で楽しく、色々なことを学ばせていただきました。先生方、後輩達、本当にお世話になり、ありがとうございます。

会員の皆様には日頃から、会報へのご投稿などお世話になりました。感謝致しております。前号新年号にて、上村新会長はご挨拶で、

会員同士をつなぐ連帯の絆としての会報への期待を述べておられます。一層の充実を願って、

会報委員会を新設されました。現在会報は年二回、一月新年会、七月総会に併せて発行されます。七月総会に併せて発行されます。それぞれのお会費納入者、及び会費納入者(総会欠席者)宛に郵送されます。発行の一月前に原稿締め切り日として会員の皆様からのご投稿をお待ち致します。原稿用紙は現在十四字

会報委員会からのお願い

した。懐しの母校での教育実習はとても有意義で楽しく、色々なことを学ばせていただきました。先生方、後輩達、本当にお世話になり、ありがとうございます。

会員の皆様には日頃から、会報へのご投稿などお世話になりました。感謝致しております。前号新年号にて、上村新会長はご挨拶で、

会員同士をつなぐ連帯の絆としての会報への期待を述べておられます。一層の充実を願って、

会報委員会を新設されました。現在会報は年二回、一月新年会、七月総会に併せて発行されます。七月総会に併せて発行されます。それぞれのお会費納入者、及び会費納入者(総会欠席者)宛に郵送されます。発行の一月前に原稿締め切り日として会員の皆様からのご投稿をお待ち致します。原稿用紙は現在十四字

×十八行です。(二枚で横一段分)できるだけ多くの方々に紙面を飾っていただきたいので、多くとも四枚以内(千字以内)にまとめていただければ幸いです。ご本人、同期、恩師、先輩、後輩などの人事往来、業績、会合、交流、思い出、叙勲、随想、趣味、旅行、訃報、追悼などな

お願い致します。(石)

母校キャンパスでは今

◎来年の青陵祭が危ないか？

校舎改築が具体化します。この十月一日から、本校舎建設期間中の仮校舎となるプレハブの建設が始まりとなります。順当にいくれば平成九年二月完成、同三月引越、同四月プレハブでの授業開始、という段取りです。

同時に、そのプレハブの敷地となる青山会館とプールを最初として、現校舎の解体が始まります。青山会館とプールはプレハブ建築開始前。仮校舎引越直後に東校舎・中校舎・昇降口棟と続きます。

その後、いよいよ本校舎の建設が始まります。それが来年、平成九年の七月の予定です。工事は十八カ月、平成十年一月完成予定。

そして、平成十一年度から新校舎での学校生活が始まり、最後の旧校舎である北校舎と特別教室棟が平成十一年四月～七月に解体され、体育棟・プールの建設が十四カ月間の予定で行なわれ、平成十二年九月いっぱいまで完成することになっています。

平成八年十月から平成十二年

九月まで、満四年間の大工事です。

この校舎改築に際しましては単に青山会館のことにとどまらず、学校全体のことで物心両面にわたり同窓会にお願いすることが多々出てくることと思われ

ますが、何分宜しくお願いいたします。

学校としましては、狭い校地内での建て替えということ、体育授業の場の確保ということを中心、グラウンド面積の保持にいちばん苦慮しているところです。

すでに同窓会関係を主として部活運動部の練習場を校地外に物色中であり、いくつか好意的な返事もいただいております。

また、旧校舎に別れを惜しむ同期会、恩師を招いての授業等が予想されます。既にいくつか照会が来ております。教室数が不足する心配もありませんが、早めに事務局にこ一報頂ければ幸いです。

来年度の青陵祭の会場が心配ですが、当該学年としてはあくまでも本校校地内で継続する意向です。広さが半分以下になる可能性が大了。応援席の枚数が最大の問題ですが、競技にも

が最大の問題ですが、競技にも連合創造にも多大の影響が出ます。何とか知恵を絞って伝統の行事を続けるつもりですが、これも温かく見守っていただくとともに、同窓会の援助をお願いにあがった際にはまたよろしくお願いいたします。

後輩の活躍

①県総合体育大会(上位入賞)

◎陸上競技

男子四〇〇M二位 石倉 淳

八〇〇M二位 荒城信介

女子トラック総合 六位

◎ボート 男子学校対抗 一位

男子ダブルスカル 一位

男子かじ付きフォア 二位

男子シングルスカル

二位 (大槻道夫)

三位 (樋口匡俊)

◎フencing 男子団体二位

フルール二位 川口太一郎

サーブル二位 川口太一郎

エペ 三位 川合健太郎

女子団体 二位

フルール二位 湯沢 美樹

三位 本多 茜

エペ 一位 本多 茜

三位 高橋亜矢子

◎水泳部

二〇〇M平泳ぎ三位齋藤拓也

一〇〇M平泳ぎ三位齋藤拓也

◎山岳部

男子 三位

◎空手道部

女子 団体組手 三位

◎柔道部

軽量級 三位 高野 剛

◎囲碁(全国大会県予選)

男子団体 優勝

女子団体 優勝

(段級位認定戦)

Aブロック 優勝 中俣正毅

Bブロック 優勝 太田 滋

Cブロック 優勝 小池 仁

Dブロック 優勝 塚田 健

◎放送 NHK杯県予選

創作ドラマ・ラジオ部門一位

課題部門 二位

◎北信越大会(上位入賞)

◎ラグビー 二位

◎山岳 男子優秀校

◎陸上 男子八〇〇M四位

荒城信介(全国出場)

池政栄先生の 二種類の本が 出版されます

67回 永井 健司

池先生が他界されてから、去る6月7日である3年たちました。先生が生前自費出版された随想集「人間」(昭和57年10月)以後、色々な雑誌や新聞にお出しになった原稿を新潟市郷土資料館友の会が編集し、「人生は走馬燈」と云う池政栄遺稿集が新潟日報事業社から二千円で8月下旬に出版される事になりました。

小林力三大先輩、長谷川義明(新潟市長)、山宮作市(県高校長OB会長)、村山実(県医師会理事)などの推薦文も添えられて書店、日報販売店から売り出されます。これと時を同じくして、プロの出版社からの遺稿集とは別に、池先生の教え子を中心になって、手造りの「池先生を偲ぶ文集」の刊行会がこの春から動き出しました。

もちろん教え子有志の寄付による自費出版です。池先生の未発表の遺稿、先生が綾子夫人や、教え子に送った書簡、先生と一緒に撮った思い出の写真、世界の史の授業のノート、池語録、先

新潟高校PTA役員

(1996年度)

会長	山下 菊夫(69回)
副会長	山富 修一(75回)
幹事	平野 利司
1年	大瀧 澄江
2年	佐々木 裕行
3年	

「池先生を偲ぶ文集」

〒951 刊行会事務局

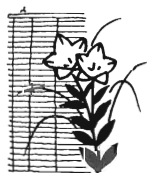
新潟市本町通七番町

一一四六番地

電話 永井 健司

電話 〇二五(二九)三〇〇一

FAX 〇二五(二九)二六〇二



平成八年度 大学入試結果

今春卒業し、青山同窓会に入会いたしました新会員は四八〇名でありました。その進路先は大学等進学者数が二六八名、専門学校二名、就職者一名、浪人数二〇九名となりました。全国の志願動向と同じように国公立大学への志向がますます強くなり、長びく経済不況もあって、実学系分野を志望する者が多くなりました。

さて、今年度の入試結果の特徴は表1に見られるように難関大学への合格者増がまずあげられます。東京大学（昨年七）、京都大学（昨年六）、東北大学（昨年二六）、早稲田大学（昨年三五）が大幅に増えました。特に東京大学現役一〇名の合格は全国の公立高校でも十五番目に相当するかと思えます。このように旧帝大や難関私立大学への合格者が増えたことは本校の生徒の持つ実力が証明されたこととなります。表2は進学先進県といわれる富山県、群馬県、長野県の進学校との、難関国立大学の合格者数を比較したものです。この表をみてわかりますように、東京大学の合格者は他県の活躍には及びませんが全体

としてはかなり善戦していると思われまます。東京大学と京都大学を合せて二四名もやはり善戦と思えます。県内の進学校をみても表2の合計数が本校が合計九五名であるのに対し、長岡高校二三名、高田高校二四名、国際情報高校一四名と、旧帝大クラスの大学に本校が強いことがうかがわれます。

しかしながら、この表1、表2からは見えない大きな問題点もあります。本校は昔から文武両道を掲げ、また進学では「入れる大学より入りたい大学へ」を進路の指針としてきました。そのため、浪人生が多く、今年も昨年とほぼ同数の二〇九名が浪人となりました。部活動が終了し、「青陵祭」が終わってからの猛勉強が本校の三年生の受験パターンですが、やはり取り組みが遅く、一浪して希望大学に合格というのめかなりあります。また地元の新潟大学についても合格率が四割を割っています。本来「入れる大学」へも不合格者を出しているのではないかとこの批判にも謙虚に耳を傾けなければならぬと反省しています。生徒の自主自立を大事

〈表1〉
平成8年度入試
主な大学合格者数

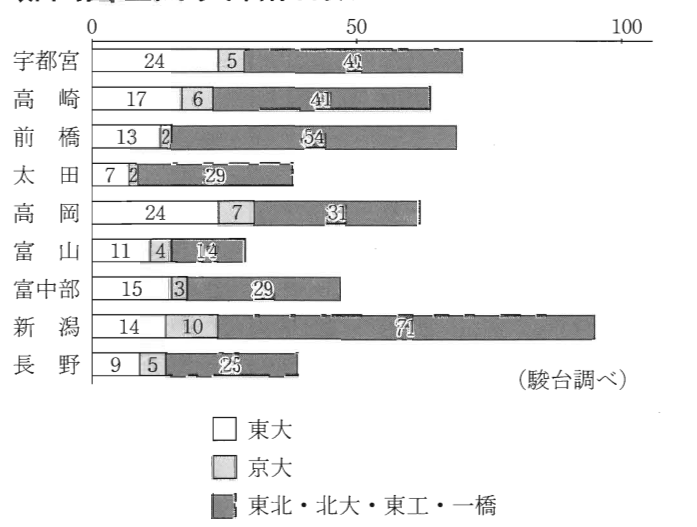
国立	公立	大	合格者数	私立大	合格者数
新潟	潟道		114(82)	早稲田	59(28)
北海	道科		19(10)	慶応義	36(14)
旭川	医		2(0)	中央治	32(9)
弘前	前手		1(0)	明治教	30(8)
岩手	北田		1(1)	立法政	16(3)
秋田	田形		40(31)	日智本	20(7)
山形	形島		1(1)	上智	30(11)
福島	島波		3(0)	青学院	9(5)
筑波	波宮		11(8)	東理科	23(9)
宇都宮	宮馬		2(0)	自治医	46(14)
群馬	馬玉		1(0)	独業工	10()
埼玉	玉葉		4(2)	千葉細	1()
千葉	葉京		16(9)	亜習	4()
東京	京語		14(10)	学北	9(2)
東京	外芸		2(2)	北國	6()
東京	学芸		3(2)	学U	2()
東京	工業		6(4)	I C	1()
お茶	水信		1(1)	駒工	16(2)
電通	橋立		1(1)	芝浦工	13(3)
一橋	立科		6(4)	昭和女	3(1)
長岡	技山		9(5)	成蹊	2()
富山	山薬		4(4)	専修	6()
富山	医		5(3)	大東文	4()
金沢	沢梨		2(1)	津田塾	7()
山梨	梨州		4(1)	東海	8(5)
山梨	州屋		1(1)	東京経	3(1)
信古	屋都		5(3)	京女子	2()
名古	都阪		(0)	京女	8(2)
京大	阪科		10(4)	京薬	2(1)
大島	科戸		2(2)	東日	2(1)
根医	戸子		1(0)	日本女	2(1)
神戸	子蔵		1(1)	武蔵	5(2)
奈良	女子		1(1)	明治学	1()
高崎	子川		1(0)	治学院	16(7)
東京都	立社		5(1)	神奈川	8()
横浜市	立館		1(0)	同志	8()
その	の他		27(13)	立命	57(14)
計			328(208)	関西学	2()
			() 現役	近畿	5(1)
				計	123(26)
					635(176)

にしながら、生徒へのきめ細かい指導が求められているといえます。時代も生徒も新しく変化しつつあります。旧態依然たる受験指導から、二十一世紀を担う新しい人材を作り出すという観点を更に明確にしながら、現役合格を増やしていかなければならないと肝に銘じています。次に私立大学については、今年度は早稲田大学が大幅に合格者増となったものの、他大学は変化があまりなく、合格者総数も昨年とほぼ変わりありません。国高低迷の流れは今後も続くものとみられ、私立大学は厳しい冬の時代を迎えてきているといえます。しかし、本校生は国立立大学志向が強く、中堅以下の

私立大の易化傾向の恩恵にはあまり浴されないといいて良いと思えます。さて、入試結果からみまして本校生徒はまだまだ潜在的には高い能力をもっており、それらを一層現役で引き出すことの大切さを感じております。今後とも同窓の皆様の一層のご理解をいただきますとともにご協力をお願い申し上げます。(進路指導部長 岡村卓二)



〈表2〉
近県の進学校における
難関国立大学合格者数比較 (96年度)



(駿台調べ)

□ 東大
■ 京大
■ 東北・北大・東工・一橋

